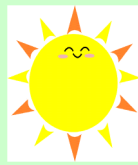


山五小 おひさま通信



5月号

山形市立第五小学校
平成27年5月28日
校長 三森 聡



みんなの心をつないだ運動会
23年ぶりに1年女子の新記録誕生



五月晴れに恵まれた5月23日、五小の子ども達でつくる春季大運動会が開催されました。5・6年生による運動会実行委員・応援団・看板・用具・放送・案内・児童会種目の係では、**子ども達の主体的な関わり合いを通して、一人一人の発想や思いをつないで仕事を進めてきました。**

今年のスローガンを「最後まで**本気**でやりぬけ！ 五小全員が**一つにまとまり**、優勝めざして**絆**を深めよう！」とし、グラウンドいっぱいに応援の声を響かせ、全力で競技に取り組む子ども達の姿がありました。最後の全員リレーが終わるまで、赤白どちらが勝つかわからないほど接戦でしたが、優勝を手にしたのは赤組でした。応援賞も赤組となりましたが、僅か4点差でした。徒競走では、1年女子60mで11秒0の記録を出し、23年ぶりの新記録となりました。



白組「優勝コール」



赤組「ビクトリー」



「4人の息を合わせて」



「絶対に離さないよ」

運動会で見られた「あたたかい かかわり」



トーンチャイムの教え合い



ボール渡しのコツを助言



着順に案内する6年生



声かけあって戦う騎馬隊



段取りを確認する放送係



分担して進める用具係

「居心地のいい あたたかい学校」 づくりのために —「がまんのコップ」の話から—



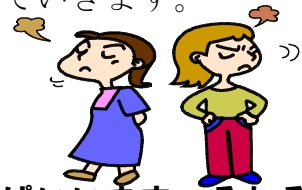
誰だって、人から嫌な言い方をされると、心の中はむかむかとなりますよね。このむかむかは、いわゆる「ストレス」というものです。このストレスがたまり、心の中が苦しくなるのです。

実は、人の心の中には、「がまんのコップ」があります。もちろん、目には見えませんが、人の身長や体重に違いがあるように、「がまんのコップ」の大きさは人によって違うのです。

「がまんのコップ」の大きい人は、少しぐらいのストレスがあっても平気でいられます。でも、しつこくしつこく、または、繰り返し繰り返し嫌なことを言われたらどうでしょう？ いくら「がまんのコップ」が大きくてもストレスはどんどんとたまってしまい、やがて「がまんのコップ」から溢れ出してしまうのです。まして、「がまんのコップ」の小さい人は、ちょっとしたでもチクチク言葉や嫌なことを言われると、ストレスはすぐに溢れ出してしまい、ものすごく苦しくなるのです。そうすると、怒ったり泣いたり、あるいは殻に閉じこもったりと自分ではどうすることもできずにパニックになってしまうことがあります。

皆さんにお願いがあります。友達への言葉遣いや言い方に気をつけましょう。例えば、こんな言い方の時にストレスはたまっていきます。

- (1) とげとげしく **きつい言葉** で言われた時
- (2) **しつこく注意** された時
- (3) バカにされたり、**からかわ** れたりした時



五小の子ども達は、優しく、温かい親切な人がいっぱいいます。それぞれのがまんのコップが溢れないように、みんなで「居心地のいい あたたかい学校」にしていってください。

<校長講話より>